

会議議事録（抄）

会 議 名	2025 年度専門学校東京テクニカルカレッジ 第二回 Web 系教育課程編成委員会																																																																																														
開 催 日 時	2025 年 12 月 4 日（木）15 時 40 分～17 時 00 分																																																																																														
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 505 教室																																																																																														
参 加 者	<外部委員：2 名>（順不同・敬称略、役職は委員名簿参照） 中山 典隆（有限会社イプシロン／東京商工会議所中野支部） 叶 修吾（フリーランス） <内部委員：1 名> 川辺 伸司（専門学校東京テクニカルカレッジ Web 動画クリエイター科科长）																																																																																														
	<系別分科会>（第二部） 1. 議長挨拶 川辺より挨拶 2. 前回（系別分科会）議事録の確認 3. 意見交換 学科の近況報告について実施。																																																																																														
討 議 内 容	■2025 年度在籍状況 議長より学科の現況について、委員に報告した。 <table><tr><td></td><td>男</td><td>女</td><td>計</td><td>▶</td><td>内 訳</td><td>高校から</td><td>既卒</td><td>就業経験有</td><td>留学生</td><td>計</td></tr><tr><td>2 年</td><td>13 名</td><td>19 名</td><td>32 名</td><td></td><td>2 年</td><td>12 名</td><td>2 名</td><td>12 名</td><td>5 名</td><td>32 名</td></tr><tr><td>1 年</td><td>22 名</td><td>19 名</td><td>41 名</td><td></td><td>1 年</td><td>16 名</td><td>1 名</td><td>10 名</td><td>14 名</td><td>41 名</td></tr></table> 既卒：浪人、大学卒業、中退者 退学者 2 年生：2 名 高校からの進学者→意欲低下。 就業経験者（専門人材育成訓練生）→早期に就職先が決定したため ■就職活動状況 議長より現在の 2 年生の就活状況について委員に報告した。 <table><tr><td rowspan="8">内定</td><td rowspan="8">21 名</td><td>Web 制作企業（※1）</td><td>4 名</td></tr><tr><td>Web 制作企業（※1）</td><td>3 名</td></tr><tr><td>システム開発企業</td><td>5 名</td></tr><tr><td>Web マーケティング系企業（※2）</td><td>1 名</td></tr><tr><td>ユーザー企業（※3）（ウェザーニュース、八芳園）</td><td>2 名</td></tr><tr><td>高校-補助教員（東京都）</td><td>4 名</td></tr><tr><td>アウトソーシング企業 - システム開発</td><td>3 名</td></tr><tr><td>アウトソーシング企業 - 映像技術者</td><td>1 名</td></tr><tr><td></td><td></td><td>アウトソーシング企業 - Web 制作者</td><td>1 名</td></tr><tr><td>就活中</td><td>2 名</td><td colspan="8">既卒 1 名、留学生 1 名 未だ決まらず</td></tr><tr><td>12 月以降活動（※4）</td><td>7 名</td><td colspan="8">専門人材育成訓練生：7 名/9 名中（2 名決定）</td></tr><tr><td>就職せず</td><td>2 名</td><td colspan="8">YouTuber として活動予定、留学生→帰国予定</td></tr></table>											男	女	計	▶	内 訳	高校から	既卒	就業経験有	留学生	計	2 年	13 名	19 名	32 名		2 年	12 名	2 名	12 名	5 名	32 名	1 年	22 名	19 名	41 名		1 年	16 名	1 名	10 名	14 名	41 名	内定	21 名	Web 制作企業（※1）	4 名	Web 制作企業（※1）	3 名	システム開発企業	5 名	Web マーケティング系企業（※2）	1 名	ユーザー企業（※3）（ウェザーニュース、八芳園）	2 名	高校-補助教員（東京都）	4 名	アウトソーシング企業 - システム開発	3 名	アウトソーシング企業 - 映像技術者	1 名			アウトソーシング企業 - Web 制作者	1 名	就活中	2 名	既卒 1 名、留学生 1 名 未だ決まらず								12 月以降活動（※4）	7 名	専門人材育成訓練生：7 名/9 名中（2 名決定）								就職せず	2 名	YouTuber として活動予定、留学生→帰国予定							
	男	女	計	▶	内 訳	高校から	既卒	就業経験有	留学生	計																																																																																					
2 年	13 名	19 名	32 名		2 年	12 名	2 名	12 名	5 名	32 名																																																																																					
1 年	22 名	19 名	41 名		1 年	16 名	1 名	10 名	14 名	41 名																																																																																					
内定	21 名	Web 制作企業（※1）	4 名																																																																																												
		Web 制作企業（※1）	3 名																																																																																												
		システム開発企業	5 名																																																																																												
		Web マーケティング系企業（※2）	1 名																																																																																												
		ユーザー企業（※3）（ウェザーニュース、八芳園）	2 名																																																																																												
		高校-補助教員（東京都）	4 名																																																																																												
		アウトソーシング企業 - システム開発	3 名																																																																																												
		アウトソーシング企業 - 映像技術者	1 名																																																																																												
		アウトソーシング企業 - Web 制作者	1 名																																																																																												
就活中	2 名	既卒 1 名、留学生 1 名 未だ決まらず																																																																																													
12 月以降活動（※4）	7 名	専門人材育成訓練生：7 名/9 名中（2 名決定）																																																																																													
就職せず	2 名	YouTuber として活動予定、留学生→帰国予定																																																																																													

※1 Web 制作、映像制作企業への内定増

学生の多くが志向する制作会社への内定が増えた。各自、何社も落ちたが、あきらめず粘り強く就活を続けた結果。

※2 Web マーケティング系企業の内定獲得

大卒が多く苦戦する領域であるが、エントリー者を増やしてゆきたい領域である。

昨年に引き続き、1 名が内定獲得。

※3 ユーザー企業の内定はいずれも大手有名企業

ウェザーニューズ（気象情報提供）Web/IT 担当、八芳園（結婚式場）映像担当

※4 12 月以降活動 専門人材育成訓練生

専門人材育成訓練生 9 名中 7 名が年明けの中途採用市場で本格的に活動予定。2 名は内定獲得。

40 代 2 名、正規雇用未経験の 30 代がおり苦戦が予想される。12 月までに転職エージェントに登録させる。

■来年度学生募集状況

議長より来年度の学生募集状況について委員に報告した。

【川辺】

高校生の出願獲得が苦戦。昨年の 12 名に対し 9 名。高校生の進路決定の時期は終わっており、これからの伸びは厳しい。

【叶委員】

原因は？

【川辺】

春先の高校ガイダンスでのオープンキャンパス誘導が足りなかった。人気が無いとかではなく Web デザイン、映像分野でのガイダンス枠が確保できなかった可能性がある。

東京都専門人材育成訓練が不採用となる。

当校の新規申請の他学科を優先したとのこと。来年度以降の復活は難しく、今後の募集に大きな痛手。少子化、大学入学易化の流れで高校生の獲得は厳しくなる一方となるので、社会人向けの通信教育課程への切り替えも検討必要と考えている。

今回は高校生募集の不調を受け、通年 10 名枠のところ今回は 15 名で申請していただけに、来年度の入学者は大幅に減る見込み。26 名程度にとどまる見込み。

■AI への取り組みについて（ご意見伺い）

議長より AI への取り組みについて委員より意見収集を行った。

【川辺】

Web 動画クリエイター科では3年前から生成 AI による画像制作の授業に着手しています。

Adobe のソフトが生成 AI 機能を搭載し始めており、人間が行う領域、AI が行う領域を常に意識させること目的です。

現在の取り組みとしては次の通りです。

- ・ PhotoShop、Illustrator の AI 機能の操作習得。
- ・ Adobe Firefly、Canva などの無料で使える生成 AI アプリの活用
- ・ ChatGPT による文章作成（就活での志望動機・自己 PR 文の作成、コピーライティングなど）

これらの授業を通して、当科の学生は生成 AI を日常的に使えるようになっている。フリー画像素材を探すより生成 AI で作成した方が早いという学生もいます。

世の中で AI 活用が進む中、学内でも AI への取り組み強化が叫ばれ始めました。

他校も AI 専科に新設や既存学科の学科名に AI をつけた科名変更が盛んに行われています。

技術トレンドを捉える、AI に仕事を取られる職種というイメージの払しょく、学生募集という面から AI への取り組みをカリキュラム変更なども視野に入れ、対外的に明確にしてゆくことを考えています。

【叶委員】

現在、私が居る Web マーケティングの会社では必要に応じて、使える AI 機能はどんどん使っている。活用場面や活用アプリも日々自然発生的に広がっている状況。ことさら AI、AI という感じはない。あえて AI を明確に打ち出さなければならないというのは、やはり学校だからですね。

【川辺】

はい。私もフリーランスの仕事では、Web デザインではキャンプのメインビジュアル生成や映像制作では方向性を確認するためのデモ動画の生成、コピーライティングのヒントなどで普通に AI を使っている感覚。

ただし、学校としては、学習分野の形づくり、学んでいる側が「この技術を勉強していて将来大丈夫である」という実感を持ち続けることが必要であり、それが募集にもつながってゆくから AI の打ち出しが必要なんです。

【川辺】

今後は次の内容を来年度のカリキュラムに追加予定です。

- ・ 広告業界（Web 業界含む）での AI 活用内容の理解および研究
- ・ プロンプトエンジニアリング
- ・ 有料アプリ（動画生成系 Sora2 など）による活用度合いの深化

【中山委員】

クリエイティブ分野での AI となると、やはりこのように活用技術が中心になりますね。

【川辺】

AI 活用技術を推進するにあたり、ジレンマがあって、既存の制作技術（デザイン、コーディング、動画の実装技術）の指導と、どのように整合性をとっていくかということです。

日々授業で身につけようとしている実装技術が AI で簡単に出来てしまう世界をみたときに、学生は

どっちが正しいのか？と考えてしまうのでは無いかということ。

【叶委員】

プロンプトエンジニアリングなどは、クリエイティブの制作でもプロンプトの入れ方によって、出来上がってくるものが全然違う。

結局、それは制作の仕様をどのように定義できるかが、求められているということ。

制作技術があつてこそ、適切な AI の活用ができる。

【中山委員】

動画を AI でつくる際にも、プロンプトに入れるシナリオやイメージを考えて入れなければならぬ。結局、それって仕様を定義している。それは AI 以前にもやっているし、必要な能力。

AI で生成する上でも、そのあとの修正でも結局実装技術が必要なわけで。そこは、あまり悩む必要が無いのでは。

結局、AI で制作したものは AI というカテゴリ内にとどまるので。コンテンツも AI 部門があつたり、AI で制作された映像やナレーションは「AI で作成されました」のキャプションが入る。

今の制作技術がそっくり AI に置き変わるということではないと思う。

自分で組んだソースコードを AI 再現させるには、どんなプロンプトを入れれば良いかを考え実践してみるなんて、学生も興味もって取り組むのでは。

AI ツールをつかひこなせることは必要ですが、既存の制作に必要な工程を理解し、それぞれの工程に求められる知識、技術を習得したうえで、その中で AI が入ることで仕事はどう変化するかを指導していくことが重要だと思います。

【叶委員】

私の現場では複数の AI ツールをまたがって使っている。AI でアイデア出しをして、その結果を別の AI で企画にまとめて、また別の AI で仕様定義を作成する。自分なりプロンプトをライブラリ化している者もいる。いろいろな AI を組み合わせることで、新しいものをつくるという体験をさせることが学生にとって有意義だと思う。

【中山委員】

募集では「この学科の AI 活用のポイント」を言えれば良い。

【川辺】

ただ、色々な AI 機能をそれぞれ、つかひこなせる技術を教えるのではなく、Web、動画の制作工程を教える授業の中で、AI を活用してゆくという授業の建付けが良さそうですね。

そう考えると、企画立案やマーケティングの授業の比率を上げて行くのが良いですかね。

【叶委員】

そうそう、本当にその通り。

企画やマーケティング施策を考えるという課題に対して AI でヒントを得て、結論を出してゆく。その妥当性検証をまた AI をつかっておこなったり。

【川辺】

企画立案やマーケティングの授業は、制作の要素がなく、どうしても学生の興味が薄くなりがちで、マーケティングの授業なんですけどランディングページの制作やバナーの制作などを入れてきたのですが、そこを生成 AI の活用に置き換えてゆくなどですね。かなり方向性が見えてきました。

以上

--	--